TANGO

丹後普及センターだより

発行 平成17年8月
〒627-8570
京都府京丹後市峰山町丹波855
京都府峰山総合庁舎内
京都府丹後農業改良普及センター
電話0772-62-4308
FAX 0772-62-5894
http://www.pref.kyoto.jp/fukyu/tango-f/
第3号

良質米生産に向けて

現在、米の産地間競争は激化しており、市場競争力のある『売れる米づくり』が求められています。丹後コシヒカリは、食味ランキングで2年連続「特A」の高い評価を受けていますが、一等米比率はここ数年低迷しており、その回復が急務です。

そこで普及センターでは関係機関と連携して、丹後コシヒカリの品質向上と、環境と食味にこだわった『京都米』の推進を重点的に取り組んでいます。乳白米や未熟米を出さないための技術実証展示ほの設置、情報誌や青空教室での適期管理の呼びかけなどを行うとともに、今後は報告会での結果報告など実施する予定です。

最後まで管理の徹底を！

本年度は、ほ場によって、軟弱徒長、多分げつ・籾数過多にあり、未熟粒の発生が心配されます。最後まで適切な管理を行い、品質向上に努めてください。

◇早期落水を避け、収穫１週間前まではほ場に水分を保ちましょう。

◇適期収穫に努め、早刈り、遅刈りによる品質低下を防ぎましょう。

営農スタート!!

研修を終え それぞれの夢に向かって

管内では５名の方が研修を終え、就農されています。

今回はそのうち３名の方をご紹介します。

石田浩章（いしだ ひろあき）

・福井県出身

就農地 京丹後市弥栄町井辺

パイプハウス７棟で、ご夫人と共にみず菜と枝豆栽培に取り組んでおられます。

石田さんのハウスも昨年の台風で倒壊しましたが、素早く復旧され、復興に向けてまい進する毎日です。

時給換算で経営状況を分析される等、意欲的に農業に取り組まれる姿勢に周囲からは「担い手」としての期待も大きくなっています。

二ノ倉芳樹（にのくら よしき）

・兵庫県出身

就農地 伊根町本庄上

昨年は台風で６棟中４棟が全壊しました。ハウス面積は増やさないで、ミズナ、ネギの栽培回数や１作収量を上げたいと考えています。

おいしい丹後コシヒカリを食べられることはこの上ない贅沢です。今は米作りにも挑戦しています。

木村マルシオコウイチ（きむらまるしおこういち）

・ブラジル出身

就農地 伊根町本坂

おが屑、魚のあら、米ぬかなどを原料に質の良い堆肥や基肥づくりを研究中です。

将来は仲間と組んで農業の規模を広げたり他の事業も展開したいと考えています。地域住民にパソコンも教えることもあります。

実践農場って何？

現在、丹後管内では３名の方が「担い手養成実践農場」で就農に向けた研修を実施されています。この実践農場は、新規に農業に参入される方を地域ぐるみで農業の担い手として養成する事業です。農業の後継者不足は農業だけでなく地域全体の大きな問題です。新規参入者に対する農地や住宅の確保等、調整がむずかしい問題もありますが、新規参入者の地域での受け入れについて、農談会等でご検討ください。

また、事業についてのご質問等は普及センターまで問い合わせください。

茶産地づくりをめざして!!

茶の生産に関心のある人で作っている「京丹後市茶業研究会」は「茶の匠塾」に衣替えしました。

塾では、集合研修として講義、実習、視察、山城での体験実習などの豊富なメニューを準備するとともに、茶を植えたい人のために個別指導を予定しています。

いつでも誰でも入塾することができます。関心のある方はご連絡ください。

総合的病害虫管理（IPM）とは

近年、効果を安定させ、環境への負荷も少ない防除方法として、総合的病害虫管理（IPM）が注目されています。これは単に散布する農薬を減らすだけではありません。病害虫が発生しにくい栽培やほ場条件、天敵が活動しやすい環境づくり、病害虫の侵入を防ぐ防虫ネットの設置などと、今までの農薬を上手に組合わせて、総合的に防除していこうというものです。現在、丹後普及センターでも実証試験を行っています。

～九条ねぎの実証試験～

前年度、アザミウマという昆虫の被害がひどかったお宅のビニールハウスをお借りして試験を行っています。

①ハウスに防虫ネットを設置し、周囲に黄色の粘着テープを張って、害虫の侵入を防ぎます。

②ハウス内にも粘着板を設置して害虫の発生を観察します。

③内部に害虫が観察された時には天敵昆虫を放し、増加をくい止めます。

～栽培に取り組んでいます！～

エビイモ新品種

今年から、京丹後市（丹後町、久美浜町、弥栄町、大宮町）と野田川町で、エビイモ（サトイモの仲間で、栽培管理によって海老の形に曲げたもの）の新品種の栽培に取り組んでいます。この新品種は、京都府の農業資源研究センターで選抜されたもので、これまでの品種と比べて早生で、収量が1.5～2倍という特徴があります。できあがったエビイモは、全てＪＡを通じて市場出荷され、ブランド京野菜として販売されます。

大豆栽培に新たな技術

不耕起密植栽培は耕起や畦整形をせず、約30cmという狭い条間で播種します。不耕起となるため、明渠排水を設置してやると排水性も良好で、畦がないのでコンバイン収穫による大豆粒の汚れも軽減できます。また「狭条」となるため、雑草が生えにくいという利点もあります。

加悦町では、今年度から大豆不耕起密植栽培に試験栽培に取り組みました。去る６月24～25日には昨年の台風23号被害により水稲作付が不可能になった同町後野地区を中心に、約2.3haの播種実証を開催しました。今後、良好な実証成果を生み出し、大豆の振興に役立つ技術として定着させていくこととしています。

台風被害から復興へ

～京野菜生産者が決起集会を開催し『もう１作１億円運動』を決議～

ＪＡ京都京野菜丹後施設園芸部会は、昨年の度重なる台風の襲来でパイプハウス1,025棟が被害を受けましたが、ボランティア841名による撤去作業や、生産者が一丸となって生産基盤の修復に努めた結果、ほぼ９割のハウスが再建されました。去る６月28日、京丹後市アグリセンター大宮にて京野菜生産者台風23号被災復興決起集会を開催し、みず菜生産者、関係機関等が被害ムードを吹き飛ばし再スタートを誓いました。

丹後農業改良普及センターからは「京都こだわり農法」を紹介し、優良生産者事例報告では、丹後部会の芳賀部会長が土づくりと発芽を安定させることで経営を安定させ、部会員一人一人が計画生産・計画出荷を心がけることが市場の評価を高めることに繋がると訴えられました。

また、芝井部会長の決意表明では、お世話になった多くの方々に対する感謝と、部会員が一丸となって災害以前よりも少しでも多くの生産量を上げるため、「もう１作１億円運動」に取り組むことを力強く宣言されました。

＊＊

丹後普及センターでは平成17年度は、下記のような課題を柱に取り組んでいます。

年度課題名	支援対象者（地域）
台風23号被害からの農業基盤復興と産地維持	京丹後市、宮津市、加悦町、伊根町の施設園芸等農家、新規就農者
新規就農者の確保と課題解決の支援	５年以内の就農支援制度活用者27名 就農研修中　６名
計画生産と安定出荷による産地の確立	ＪＡ京都京野菜施設園芸部会285戸
京都こだわり農法など環境にやさしい農業の定着	京都こだわり農法対象品目生産者 延べ1,272戸　エコファーマー 54人
「京都米」の推進による丹後コシヒカリの競争力強化	管内全域　水稲栽培農家
地域と連携した農漁村起業組織の支援と地産地消の推進	管内起業グループ　26組織 管内小中学校及び生産者
新規導入品目及び拡大品目の産地体制づくり	丹後国営開発農地営農者 311戸、６組織
農のあるライフスタイルの提案による地域支援	伊根町筒川地域

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています。